

ぐるっと  
250キロ

佐和田

## 県道佐渡一周線バイパス道路 「窪田沢根線」一部開通

県道佐渡一周線の窪田～沢根間は単線で幅員が狭く、車の走行、歩行者や自転車の安全確保、沿道の住環境、災害時の交通マヒなどの解決が急がれていました。

昭和52年、窪田沢根線は県道佐渡一周線のバイパス道路として計画が持ち上がり、旧佐和田町は湾岸道路の必要性を訴え「佐和田町都市基本計画」を策定するとともに、併せて「湾岸道路推進委員会」を設置しその実現に向け県との協議を重ね、具体的な検討を進めてきました。その後、幾たびかの協議の結果、地域全体の整備計画や用途地域の指定の手続きが開始され、平成12年12月に事業認可が下り、長い年月をかけ、この度窪田沢根間延長約1.3キロメートルが開通する運びとなりました。

この道路には43箇所の花壇が緩傾斜護岸に整備されており、5月に植栽した花も成長し、ドライバーや散歩をする人の目を楽しませてくれます。この先質場までの間の、一日も早い全面開通が待ち望まれます。

ぐるっと  
250キロ



ぐるっと  
250キロ

真野

## くだものまつり

9月11日(日) 真野活性化センターいぶき21を会場に「くだものまつり」が開催されました。毎年おなじみの即売コーナーでは西三川産の

りんごやなし、ぶどうが販売され長蛇の列ができていました。また、サービスコーナーではりんご100%ジュースやくだもの試食、沖汁がふるまわれ訪れた大勢の親子連れなどが舌鼓を打っていました。



人気のりんごの皮むき大会では、過去最長記録の3m87cmを超える3m90cmの新記録が出るなど、まつりは大いに盛り上がりました。

人気のりんごの皮むき大会では、過去最長記録の3m87cmを超える3m90cmの新記録が出るなど、まつりは大いに盛り上がりました。

ぐるっと  
250キロ

赤泊

## インド・ガーナ 国際交流公演

第14回となる国際交流公演が9月17日(土)赤泊中学校体育館で開催されました。今回はインドからチャルクラ舞踊団を、またアフリカ・ガーナの伝統音楽グループ・アクワバを招き公演が行われました。会場を訪れた観客はアクワバの伝統楽器の音楽とチャルクラの民族舞踊を間近で楽しみました。特にチャルクラ舞踊の最後に紹介された、女性が108個の灯明を灯した50kgを超える灯明台を頭に乘せての踊りに、観客は魅せられていました。



ぐるっと  
250キロ

## 秋・真っ盛り!! さつま芋ほり

小木



9月22日秋晴れの中、小木保育園の4才児達が、春から精魂込めて育ててきた、さつま芋の収穫に出かけました。今年は、さつま芋づくりに適した気候と、子どもたちの願いを受けて、地元の「石塚さん」の指導の賜物により大豊作となりました。収穫した「さつま芋」の前で、満足顔で芋を掲げることもちがいを、笑顔で見つめる「石塚さん」。思いやりの心が、子どもたちにも、きっと届いたことでしょう。収穫したさつま芋を、ご馳走になりました。大変おいしかったです「ごちそうさまでした」。



収穫したさつま芋を、ご馳走になりました。大変おいしかったです「ごちそうさまでした」。

ぐるっと  
250キロ

両津

## 久知八幡宮例祭



9月15日(木)、下久知地区の久知八幡宮において例祭が行われ、県無形文化財

の花笠踊り、刀刀(とうとう)と呼ばれる剣舞、獅子踊りなどの伝統芸能が奉納されました。その中でも、大人顔負けの迫力で刀刀を披露する姿や花笠踊りのかわいらしい姿など子供の一生懸命な姿が印象的で、いつもは静かなこの神社もこの日ばかりは大勢の人が集まり、活気に溢れた一日となりました。子供が少なくなり本来男の子が行うべき役割を女の子がやっている状況もありますが、これからもこの伝統芸能を続けてもらいたいと思います。



ぐるっと  
250キロ

相川

## 金泉・高千・外海府地区 敬老会



9月15日・16日、ワイドブルー相川を会場に敬老会が行われました。

今年は金泉・高千・外海府地区の70歳以上のお年寄りを対象としており、総勢300余名の参加者がありました。

四魂の会・杉山民友会・子宝による余興や園児たちによるお遊戯を楽しみました。園児のなかにはお孫さんがいたりといへん盛り上がっていました。昼食後には温泉に入り、満喫した1日を過ごしたようです。



### 佐渡市の高齢者数

平成17年8月末時点での佐渡市の65歳以上の高齢者数は23,678人で総人口に占める割合(高齢化率)は34.4%となっています。

90歳以上の高齢者数は1,257人。このうち、100歳以上の高齢者数は32人です。男女別では、男性8人、女性24人と、女性が全体の75%を占めています。

最高齢者は108歳の女性の方で、この方は県内でも第2位の高齢者となっています。



ぐるっと  
250キロ

新穂

## 新穂トキっ子保育園の大運動会



9月24日(土)赤トンボが飛び交う秋空の下、保育園グラウンドは園児を応援する保護者で埋め尽くされました。

今年は宇宙飛行士の野口さんで注目された「宇宙」や「サンバ」にちなんだ種目を取り入れたりするな

ど保護者や園児たちのアイデアが詰まった運動会になり、全15種目に渡って日頃の練習の成果が発揮されました。園児は総勢159名にもおよび、競技中はハプニング続きの為に見守る保護者は一喜一憂し、我が子の成長を見届けた一日に若干の疲労はあるものの大きな喜びを感じられたようでした。



【おわびと訂正】 市報さどり月号10ページ、ぐるっと250キロ新穂ふるさと夏まつりの記事の中で、「みどり会」とあるのは「こがね会」の誤りでした。おわびして訂正します。



ぐるっと  
250キロ

金井

## 航空自衛隊佐渡分屯基地創設50周年記念行事

9月17日(土)に、航空自衛隊佐渡分屯基地において、創設50周年記念行事が行われました。佐渡分屯基地は、昭和30年の創設より今日まで国家の安全のみならず地域の安全に寄与されてきました。

当日は、基地が一般開放され約2,000名の方が入場し、ブルーインパルス・C-1輸送機・F15の展示飛行、ゲームコーナー、野外炊飯(カレーライスと豚汁)等のイベントが行われ、終日にぎわっていました。また、翌日にはアミューズメント佐渡で中部航空音楽隊と佐和田・金井中学校吹奏楽部による演奏が行われ、1,000名の入場者は吹奏楽の演奏を通して音楽の醍醐味と楽しさを満喫しました。



中部航空音楽隊と佐和田・金井中学校吹奏楽部による演奏が行われ、1,000名の入場者は吹奏楽の演奏を通して音楽の醍醐味と楽しさを満喫しました。



ぐるっと  
250キロ

畑野

## 梨で交通事故ナシを呼びかけ



秋の全国交通安全運動に合わせ、9月27日(火)後山小学校前で川西保育園の園児が、28日(水)には新多田橋交差点付近で多田保育園の園児が、交通事故ナシの願いを込めて通過する車に梨と手書きイラスト入りのチラシを配布し、事故防止を呼びかけました。

運転手の方々も園児の呼びかけに「ありがとうございます。気をつけて運転します。」と笑顔で応え、運転への注意を再確認しました。



注意は一瞬、事故一生です。これから日が暮れる時間も早まりますので、今まで以上に注意して安全運転を心がけましょう。

## 特養「スマイル赤泊」オープン

特別養護老人ホーム「スマイル赤泊」は、10月1日から入所者の受け入れを始めました。



当施設は、完全個室のユニットケア(小規模生活単位型)を提供する、新型特養です。「ユニットケア」は、少人数のグループで日常生活を行い、限りなく家庭環境に近い生活とケアを提供するものです。できる限り施設感を無くすために、居室は完全個室で、利用者が自由に利用できる施設です。集団生活とは違い、ライフスタイルも一人ひとりにあったリズムで生活できる施設となっています。



## 新穂小学校校舎改築工事着工

新穂小学校校舎改築工事が、9月2日(金)に安全祈願祭を行い、着工の運びとなりました。

工事は来年の11月には完了し、3学期から利用できる予定です。

この新校舎は、鉄筋コンクリート造瓦葺き2階建て、床面積3707.42㎡の規模で、事業費(既存校舎解体撤去費含む)約12億円です。太陽光発電設備や雨水利用設備を備え、また、佐渡産の木材を積極的に使用し、環境に配慮した資源の有効利用を図っています。



## 「越佐・ほいさ快議inまるごと佐渡」

佐渡市内のNPO法人が中心となって、県内の団体や個人に呼びかけ体験型ツアーを企画して交流を行いました。

9月24日の1日目は、金山の歴史と当時の人々の生活を地元ガイドの案内で町並みを散策しながら体験する「相川と歴史散策ツアー」、かつて佐渡の国府であった真野地区の史跡散策と能楽体験する「佐渡能楽・遊楽ツアー」、宿根木の町並みを小木中学生在案内ガイドする「学校とまちづくりツアー」に別れて、普段と一味違う体験型の旅を県内から集



まった35人の参加者に楽しんでいただきました。

25日の2日目はトキ交流会館で参加者と企画したNPO団体と語り合う、感動プレゼンテーションが開催され活発な意見が交わられていました。参加者は自ら地域活動に携わっている方々が多いだけに、3つのツアーで佐渡の文化や歴史をこれだけ伝えられるのだから、今回の企画だけで終わるのではなく、まだまだ佐渡の魅力を引き出せば感動できる旅をたくさん提供できるはずとエールを送られ閉幕しました。



## ロシアの極東水産大学校生5名が環日本海地域交流セミナーで3週間の佐渡研修



アワビの養殖研修

8月21日から3週間の日程でロシア極東水産大学5名が水産加工と栽培養殖グループに分かれ短期研修とホームステイを行いました。

アワビ養殖研修受け入れ担当者「アワビ養殖の全体像は理解できたと思います。特に養殖ネット類は上手に作成していました。ロシアで代替材料をそろえ作成されれば他の養殖も容易になると思います。」

ホストファミリー「言葉の問題はありましたが、芸能交流、お茶会など日本の文化を理解していただいたようです。1時間で行ける欧州なので自分の娘、息子のようにまた会えることを楽しみにしています。」



ホームステイの方々

### 研修生 モスカリエンコ、オレシヤ ビタリェブナ

幸運にも、私は研修生に選ばれました。自分の目でこのユニークな国を見るだけでなく、水産関係の仕事にも接する事ができました。ここでの経験は貴重であるばかりか、実際に見聞したことをもとにウラジオストックに戻ってから、佐渡での飼育の体験を再現してみようと思います。水槽に入れるためのアワビ飼育用ネット類の作成、それから飼育の知識、温度管理、飼育用えさの内容、種苗の移植など数え切れません。研修も最後になってくると帰国するのが残念でたまりませんでした。帰国後もこの貴重な体験を多くの友人に伝えたいと思います。

### クラークコフ新潟ロシア連邦総領事の修了式メッセージから ～総領事館発案の佐渡のキャッチフレーズ

「日本海の真珠」～

佐渡は自然も豊かで、食べ物も美味しい。海も山も湖もあり、四季を通じて楽しむことができる。このような環境で研修できることは素晴らしいことです。また、佐渡は観光目的でも美しい場所であり、今回の研修生もロコニで、佐渡のすばらしさをロシア人の間に広めてくれるものと信じています。今後も交流の計画があるようですが、領事館としては全面的に協力したいと思います。

## 仁川市「日韓交流事業」・ソウル市「日韓友情年2005」に参加して

県立羽茂高等学校赤泊分校教諭 古 俣 徹 也

毎年島内で郷土芸能を披露している羽茂高校赤泊分校郷土芸能クラブ、今年はお隣の国、韓国に2泊3日で行って来ました(団長:校長石井哲彰、生徒31名)。韓国では、9月24日、日韓交流事業として日本から高校2校大学1校、韓国から高校3校大学1校が参加し、仁川市で午前「意見交換会」、午後「交流公演」を行いました。

また、日韓国交正常化40周年記念の「イベントパレード」はソウル市に場所を変え、夕方参加しました。意見交換会は、韓国の学生と交流促進をテーマに討論しました。その中で、お互いを理解し合うことが大切であるという結論が出ました。そして、早速実行に移すためにメールアドレスの交換を行いました。すでにメールのやり取りを始めている生徒もいるようです。

交流公演では、舞台慣れた生徒たちに緊張はまったくありませんでした。余裕すら感じる演技で会場の空気を盛り上げていました。

パレードは、ソウルの大学路と呼ば



れる大通りで観客2万人の中で行われました。「山田のハンヤ」を踊っている女生徒に「かわいい」という声日本語で上がっていました。「鬼太鼓」は、生徒のテンションが高く、いつもより動きがダイナミックでした。普段見慣れている私でも熱いものを感じました。観客の反応はとでも良く、手拍子をしてくれたり、お囃子や掛け声を真似ていました。一緒に佐渡の芸能を楽しむことができ、生徒と観客が一体となった気がします。また、パレードを終えてからも、人気が高く、生徒と一緒に記念撮影を望む方がたくさんおり、撮影をご遠慮願うほどでした。



韓国に行く前は不安のためか、乗り気でない生徒が多く、少々心配でした。しかし、韓国から帰ってきた今、生徒たちの表情からは交流会と公演をやり遂げた充実感が伝わってきます。今回の韓国行きは、良い思い出になり視野が広がり自分自身を高める良い材料になったと確信しています。

